

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 26 日現在

機関番号：14602

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24310196

研究課題名(和文) 歴史教育におけるジェンダー視点の導入に関する比較研究と教材の収集及び体系化

研究課題名(英文) comparative study of history education from gender perspective and collection/systematization of teaching material

研究代表者

三成 美保 (Mitsunari, Miho)

奈良女子大学・生活環境科学系・教授

研究者番号：60202347

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の主な成果は、以下の3つである。三成・姫岡・小浜編『歴史を読み替えるージェンダーから見た世界史』2014年と長野・久留島・長編『歴史を読み替えるージェンダーから見た日本史』2015年の刊行。前者(『読み替える(世界史編)』)の合評会を兼ねた公開シンポジウムの開催(2014年7月)。科研費共同研究会(比較ジェンダー史研究会)独自のウェブサイト(<http://ch-gender.jp/wp/>)の開設。このウェブサイトは、『読み替える』の情報を補足すること及びジェンダー史WEB事典として活用されることをめざしている。また、高校教科書の書き換え案も提示している。

研究成果の概要(英文)：The results of our study group are as follows. We published two books: Mitsunari, Himeoka, Kohama(ed.), "Reexamination of world history from the point of view of gender" (2014) and Nagano, Kurushima, Osa(ed.), "Reexamination of Japanese history from the point of view of gender" (2015). We held a symposium on gender history(2014, July), which was a joint review of "Reexamination of world history from the point of view of gender". We opened a web site of gender history. This web site aims at giving information about gender history education and serving as a web encycloped of gender history. There are many examples of rewriting of high school history textbook.

研究分野：ジェンダー史、ジェンダー法学、西洋法制史

キーワード：ジェンダー 世界史 歴史教育 日本史

### 1. 研究開始当初の背景

(1)本研究は、「歴史教育におけるジェンダー視点の導入」(以下では「ジェンダー史教育」と略記)に関する基礎研究を行うことを目的とした。本研究の出発点となったのは、第21期日本学術会議史学委員会「歴史学とジェンダーに関する分科会」(2008~2011年)における議論・シンポジウムの成果である。それは、おもに3つある。

同分科会主催で2009年12月に開催した公開シンポジウム「歴史教育とジェンダー - 教科書からサブカルチャーまで」では、100名以上の参加者を得て、活発な議論が行われた。その成果は、『学術の動向』2010年5月号に掲載した。

上記をさらに発展させたものとして、姫岡(研究分担者)・長野編『歴史教育とジェンダー - 教科書からサブカルチャーまで』(2010年)を刊行した。

同分科会と歴史認識分科会が共催した公開シンポジウム「歴史認識を変える - 歴史教育改革とジェンダー」(2011年7月)においては、歴史学へのジェンダー視点導入の意義をいっそう鮮明にすることができた。

(2)上記の成果をあげる過程で直面したのは、ジェンダー史の「ゲッター化」とも言える現象にどう対処するかという課題であった。具体的には、一般史のなかで扱われるジェンダー・トピックの少なさと偏りをいかに是正し、担い手(ジェンダー史教育者)の圧倒的不足にどう対処するかという課題である。これを解決するためには、歴史教育におけるジェンダー視点の導入に関する本格的な国際比較研究を行い、体系的な教材収集と成果の公表によって、わが国のジェンダー史教育に不可欠の基盤を築かねばならないと考えるに至った。

### 2. 研究の目的

本研究では、3つの研究目的を設定した。

(1)ジェンダー史教育の方法論を検討し、ジェンダー史を一般紙に組み込むことの必要性和緊急性を説得的に示す。

(2)ジェンダー史教育の現状を明らかにするために高校歴史教科書と大学入試問題を分析し、ジェンダー史教材の開発に関する国際比較研究を行う。

(3)ジェンダー史教材の調査・収集・整理・体系化を行い、高校教育や大学教養教育で使いやすい教材を開発する。

### 3. 研究の方法

(1)定期的に共同研究会を開催し、各メンバーが分担する課題について順次報告を行った。共同研究会の一部は公開シンポジウムとして実施した。

(2)外国・国内でのジェンダー史教育の現状に関する調査研究を行い、ジェンダー・トピックに関する史資料やデータを蒐集・整理した。

### 4. 研究成果

(1)最大の研究成果として、『歴史を読み替える』全2巻を刊行した。三成美保・姫岡とし子・小浜正子編『歴史を読み替える - ジェンダーから見た世界史』大月書店、2014年と、長野ひろ子・久留島典子・長志珠絵編『歴史を読み替える - ジェンダーから見た日本史』2015年である。両書とも高校歴史教科書の章立てに準じた章構成とし、あえて通史とした。また、補助教材として使いやすいよう、見開き2ページを1単位とする構成として、左ページに本文解説、右ページに史資料や図版、参考文献を掲載した。世界史編は、全15章であるが、その第1章「総論 歴史とジェンダー」は、ジェンダー史方法論をまとめた。第2章以下の各時代・地域に関する章では冒頭に「概説」を入れ、時代の見取り図とジェンダー史年表を添えた。各章末尾には「特論」を配して、通史的なトピックや比較を論じた。

(2)『読み替える(世界史編)』の合評会を兼ねて、2014年7月に公開シンポジウムを開催した。日本史・東洋史・西洋史・高校世界史担当教員などから報告・コメントをしてもらった。その成果の一つであるコメントは、本科研費研究会(比較ジェンダー史研究会)のホームページに掲載している。

(3)『読み替える(世界史編)』の刊行にあわせて(2014年5月)比較ジェンダー史研究会独自のウェブサイト(<http://ch-gender.jp/wp/>)を開設した。このウェブサイトは、『読み替える』の情報を補足することを主な目的の一つとしているほか、ジェンダー史WEB事典として活用されることをめざしている。また、高校教科書の書き換え案も提示している。1日あたり400~500件のアクセスがあり(2015年6月現在)統計をとりはじめた2014年10月以降、アクセス総数はすでに8万件を超えた。順調に利用がすすんでいる。

(4)共同研究の結果、以下の課題が明らかになった。ジェンダー史の蓄積の偏りを是正する必要があること、日本史・アジア史を組み込んだ「関係史」としての「ジェンダー世界史」の構築が必要であること、専門用語を増やさずにジェンダー視点からの教科書書き換えが必要であることである。これらの課題については、新規の科研費共同研究で実現したいと考えている。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 14 件)

三成美保「ジェンダー法学の可能性 高校教育から生涯教育まで」『ジェンダー法研究』vol.1, 2014, pp.75-89、依頼原稿

井野瀬久美恵・姫岡とし子・小浜正子・三成美保・藤垣裕子・林陽子・浅倉むつ子「教養教育は何の役に立つのか? ジェンダー視点からの問いかけ」『学術の動向』Vol.19.No.5, 2014, pp.7-47、依頼原稿

三成美保「持続可能な社会とジェンダー」『法の科学』45号、2014、pp.53-64、依頼原稿

小川眞里子「ノーベル賞産国日本で、なぜ女性受賞者が出ないのか?」『人文論叢』(三重大学人文学部文化学科研究紀要) 31号、2014、pp.47-59

三成美保「総論 親密関係とセクシュアリティ」『ジェンダーと法』10号、査読有、2013、pp.75-89

三成美保「LGBTI の権利保障 歴史と比較を通して」『歴史地理教育』813号、2013、pp.18-25、依頼原稿

姫岡とし子「ドイツにおけるナショナリズムと女性の政治化」『メトロポリタン史学』9号、2013、pp.51-73、依頼原稿

久留島典子「戦功の記録 中世から近世へ」『国立歴史民俗博物館研究報告』182号、2013、pp.167-181、査読有

久留島典子「中世女性の『長寿』と老い」『日本歴史』776号、2013、pp.12-21、査読有

井野瀬久美恵「二人の女王の物語」『歴史評論』762号、2013、pp.5-19、依頼原稿

井野瀬久美恵「謝罪のポリティクス 奴隷貿易廃止 200 周年とは何だったのか?」『七隈史学』15号、2013、pp.1-16、依頼原稿

三成美保「マスキュリニティの比較文化史」『女性史学』22号、2012、査読有、pp.33-61

姫岡とし子「ドイツにおけるホロコーストの記憶文化と性」『歴史と地理』654号、2012、査読有、pp.1-15

「特集 歴史認識とジェンダー」『歴史評論』748号、2012、pp.4-70、依頼原稿  
姫岡とし子「歴史認識を考える 歴史教育改革とジェンダー」/成田龍一「歴史認識と女性史像の書き換えをめぐる」近現代日

本を対象に」/小浜正子「中国史の歴史認識とジェンダー」/桃木至朗「アジアから全体史を見る/語る」/羽場久美子「EU の歴史認識とジェンダー 書かれた歴史、なされた歴史、認識された歴史、そしてジェンダー」/桜井万里子「ジェンダー史の可能性 西洋古代史研究の立場から」

〔学会発表〕(計 8 件)

三成美保「ジェンダー法学教育の現状と課題」日本学術会議法学委員会ジェンダー法分科会公開シンポジウム「法の世界とジェンダー—司法と立法を変えることはできるのか?」(2014年6月28日、於:早稲田大学)

井野瀬久美恵「第一次世界大戦前ヨーロッパナショナリズムと大衆心理」政治経済学・経済史学会春季総合研究会シンポジウム(2014年6月28日、於:東京大学)

三成美保、姫岡とし子、小浜正子「日本学術会議学術フォーラム:教養教育は役に立つのか? ジェンダー視点からの問いかけ」(2013年6月29日、於:日本学術会議)

三成美保「同性愛の位相 歴史学と法学のコーポラから見えてくるもの」ジェンダー史学会(2013年6月8日、於:奈良女子大学)

三成美保「総論 親密関係とセクシュアリティ」ジェンダー法学会第10回学術大会シンポジウム「セクシュアリティとジェンダー」(2012年12月9日、於:早稲田大学)

小浜正子「生育の医療化・国家化と家族の絆 - 「一人っ子政策」と母系家族の顕現」第62回現代中国学会全国学術大会<ジェンダー>特別分科会「現代中国におけるジェンダー・生育・人々の絆」(2012年10月21日、於:一橋大学)

井野瀬久美恵「<自由と博愛のイギリス帝国>再考 せめぎ合う文明化と人種混淆」西洋史学会第62回大会 小シンポジウムⅥ「西洋文明と他者 比較のなかの人種意識」(2012年5月20日、於:明治大学)

姫岡とし子「歴史研究とジェンダー - 近代ドイツのナショナリズムを例にして」メトロポリタン史学会(2012年4月21日、於:首都大学東京)

〔図書〕(計 12 件)

長野ひろ子・久留島典子・長志珠絵編『歴史を読み替える—ジェンダーから見た日本史』2015、278

三成美保・姫岡とし子・小浜正子編『歴史を読み替える—ジェンダーから見た世界史』大月書店、2014、314

小浜正子・松岡悦子編『アジアの出産と家族計画 - 「産む・産まない・産めない」身体をめぐる政治』勉誠出版、2014、286

大阪大学歴史教育研究会編(代表:桃木至朗)『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014、311

大口勇次郎・服藤早苗・成田龍一編『ジェンダー史』(新体系日本史)山川出版社、2014、460

Germer/Mackie/Wehr(eds.), *Gender Nation and State in Modern Japan*, Routledge, 2014 (Toshiko Himeoka, *The Gendering of Work and Workers in the Process of Modernisation of the Textile Industry*, pp.119-140.)

成田龍一『戦後日本史の考え方・学び方: 歴史って何だろう?』河出書房新社、2013、240

香川檀『想起のかたちー記憶アートの歴史意識』水声社、2012、365

羽場久美子『グローバル時代のアジア地域統合 日米中関係とTPPのゆくえ』岩波書店、2012、64

成田龍一『歴史学のナラティブ - 民衆史研究とその周辺』校倉書房、2012、461

Muta/Yamamoto(ed.), *The Gender Politics of War Memory. Asia-Pacific and Beyond*, Osaka University Press, 2012 (Toshiko Himeoka, *The Gendered Limits of Holocaust Memories in Germany*, pp.135-156)

Neelam Kumar(ed.), *Gender and Science: Studies across Cultures*, New Delhi: Cambridge University Press India, 2012 (Mariko Ogawa, *Japanese Women Scientists: Trends and Strategies*, pp. 150-171)

〔その他〕  
ホームページ等  
科研費共同研究会(比較ジェンダー史研究会)のウェブサイトを開設した。  
<http://ch-gender.jp/wp/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

三成 美保 (MITSUNARI, Miho)  
奈良女子大学・研究院生活環境科学系・教授  
研究者番号: 60202347

### (2) 研究分担者

姫岡 とし子 (HIMEOKA, Toshiko)  
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授  
研究者番号: 80206581

小浜 正子 (KOHAMA, Masako)  
日本大学・文理学部・教授  
研究者番号: 10304560

井野瀬 久美恵 (INOSE, Kumie)  
甲南大学・文学部・教授  
研究者番号: 70203271

久留島 典子 (KURUSHIMA, Noriko)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号: 70143534

桜井 万里子 (SAKURAI, Mariko)  
東京大学・人文社会系研究科・名誉教授  
研究者番号: 90011329

小川 眞里子 (OGAWA, Mariko)  
三重大学・人文学部・特任教授  
研究者番号: 00185513

香川 檀 (KAGAWA, Mayumi)  
武蔵大学・人文学部・教授  
研究者番号: 10386352

羽場 久美子 (HABA, Kumiko)  
青山学院大学・国際政治学研究科・教授  
研究者番号: 70147007

荻野 美穂 (OGINO, Miho)  
同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・教授  
研究者番号: 60194479

富永 智津子 (TOMINAGA, Chizuko)  
宮城学院女子大学・キリスト教文化研究所・研究員  
研究者番号: 90217547

### (3) 連携研究者

桃木 至朗 (MOMOKI, Shirou)  
大阪大学・コミュニケーションデザインセンター・教授  
研究者番号: 40182183

成田 龍一 (NARITA, Ryuichi)  
日本女子大学・人間社会学部・教授  
研究者番号: 60189214